

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1. 各科目の分析結果と課題及び改善の方策

A問題：主として「知識」に関する問題

B問題：主として「活用」に関する問題

○：正解率が高かった問題

▲：正答率から課題とみられる問題

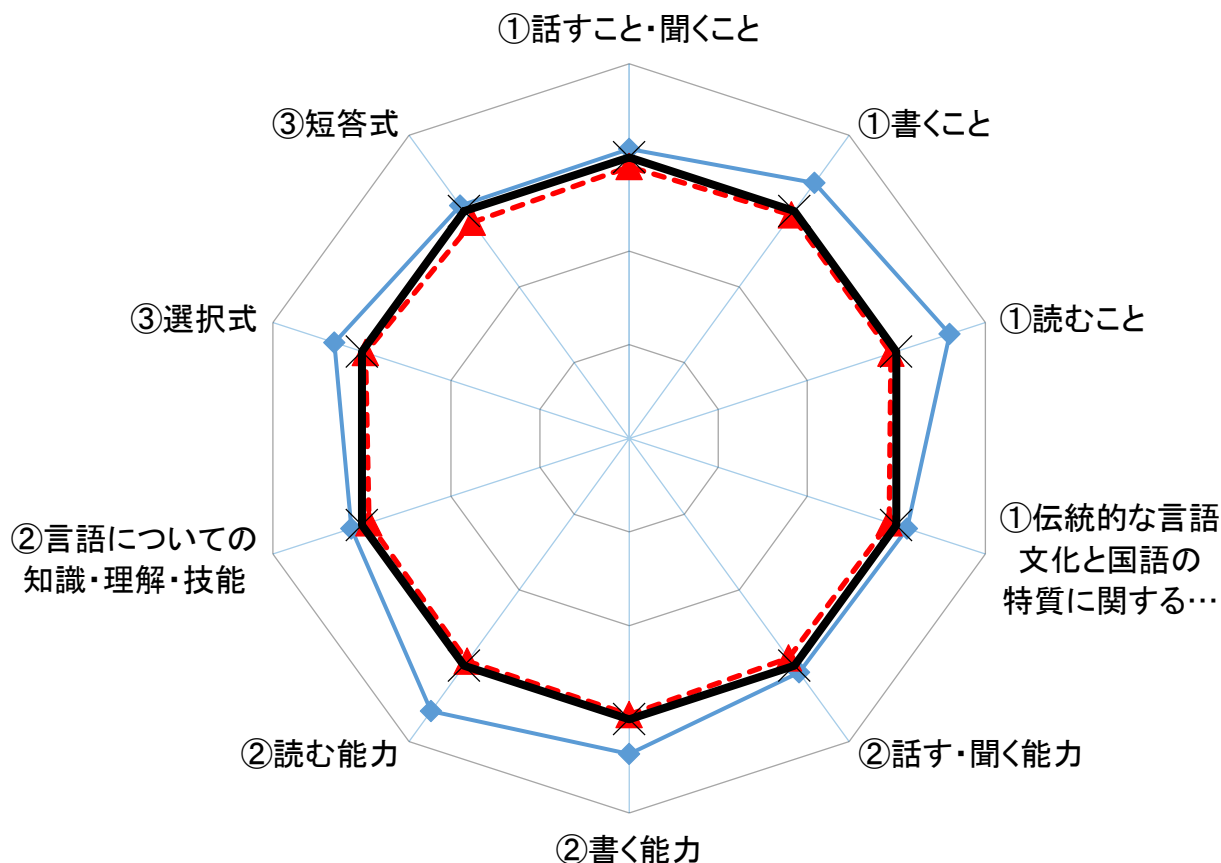
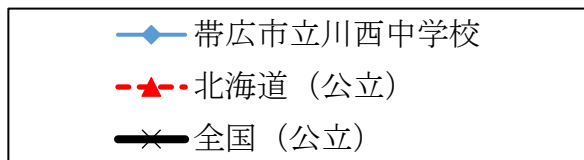
① 国語

・国語A

○全国と比べて正答率が高かった設問から分析すると、「文章を読み、内容を理解する力」が平均して高かった。

○また、同様に「辞書を活用する能力」が平均して高かった。

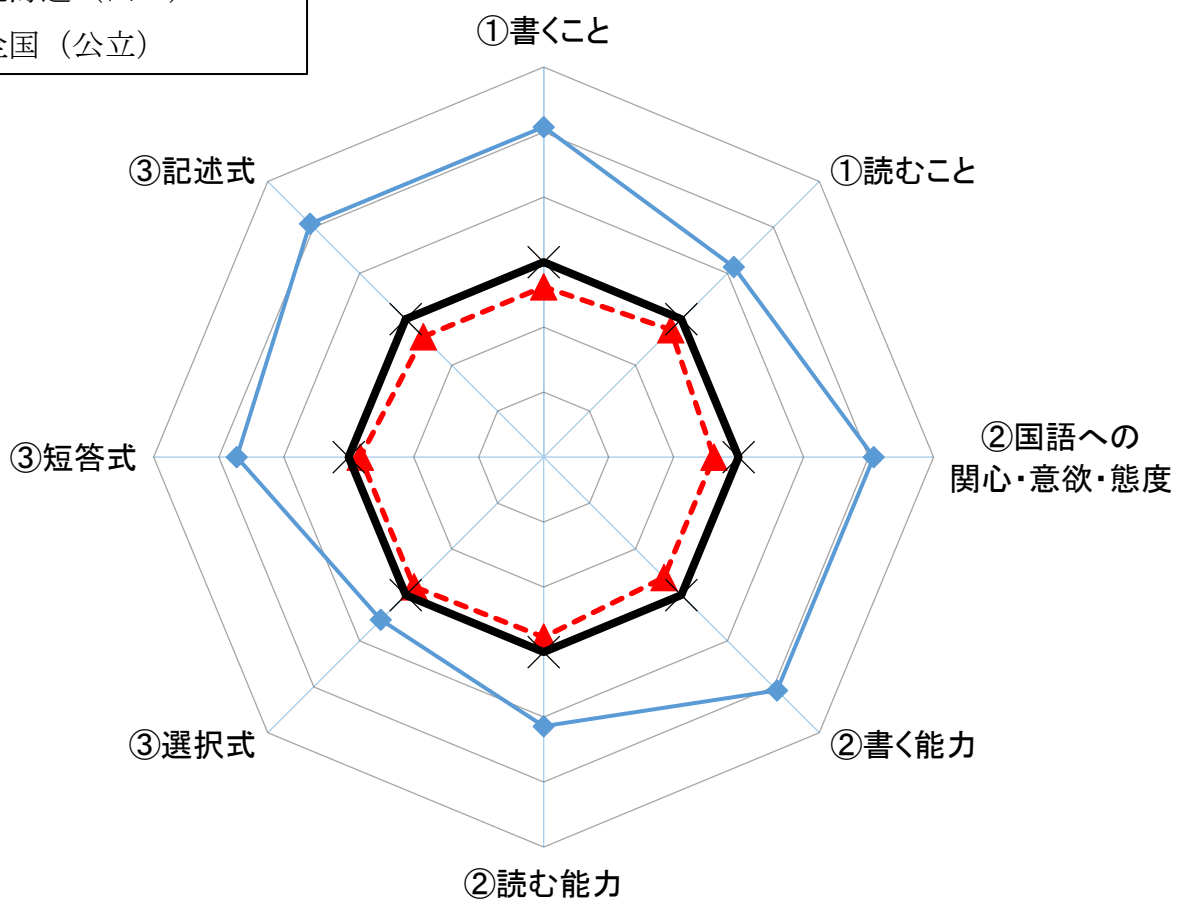
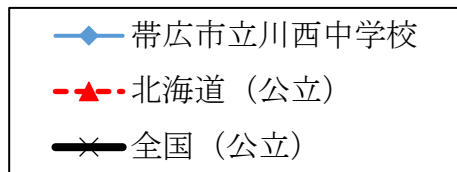
▲「提示された資料を使って話す内容を構成」、「自分の文章を構成」する設問で、課題がある。



・国語B

- ひとつの設問を除いて、どれも全国平均より高かった。
- 「主として活用する」学力の定着としては、一定の成果が見られた。

▲「目的に応じて文章を要約」する設問で、課題がある。



◇ 改善の方策

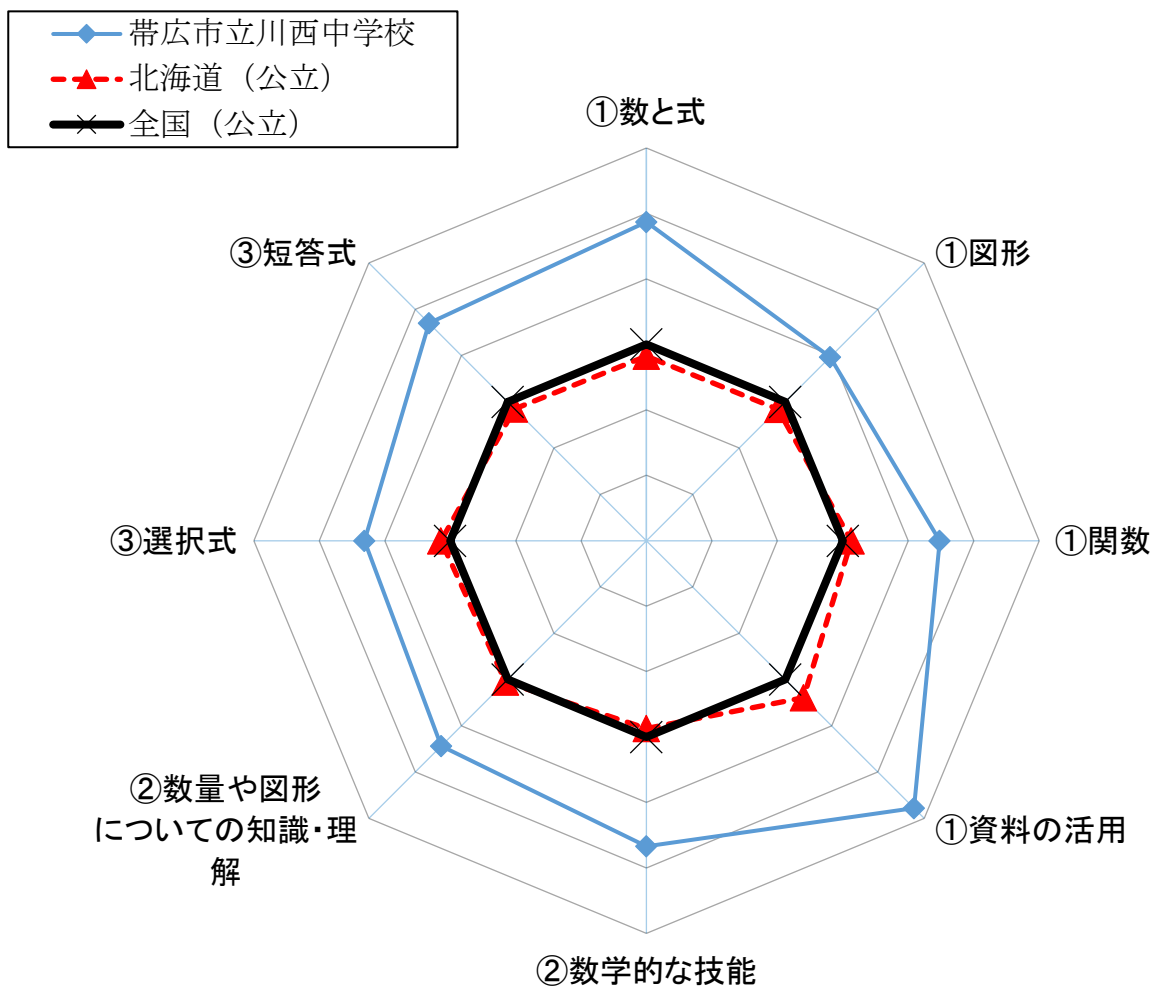
- ・話す内容を構成してから話すという経験が授業の中で少なかったことが原因と考えられる。このため、意見発表などの授業に加えて、更に「話すこと」の授業を充実させ、実践していく。
- ・雑誌の記事を想定した複数の説明の文章と図を組み合わせた問題からなり、それぞれの文章と図を使って、何を述べているかを考える設問だった。このような問題が初めてで、書かれている内容を大きくつかむ要約力の不足が考えられる。教科書の文章でも、特定の範囲を要約する機会を更に充実させ、実践していく。

② 数学

・数学A

○授業開始時の毎回の小テストにより、四則計算や方程式等の計算力向上を図った。そのため、基礎的・基本的な計算は得意な生徒が多く、高い正答率を示した。特に一問一答式のように、考えることが1つの問題については特に高い傾向がある。

- ▲自然数については、意味をしっかりと理解していない生徒が多かった。
- ▲数量の関係を文字式で表す問題では、割り算の余りの部分を式に表すことができていなかった。
- ▲作図については、作図はできるが言葉で説明することが苦手な生徒が多い傾向がある。
- ▲関数では、グラフと表の関係を理解していない生徒が多い傾向がある。



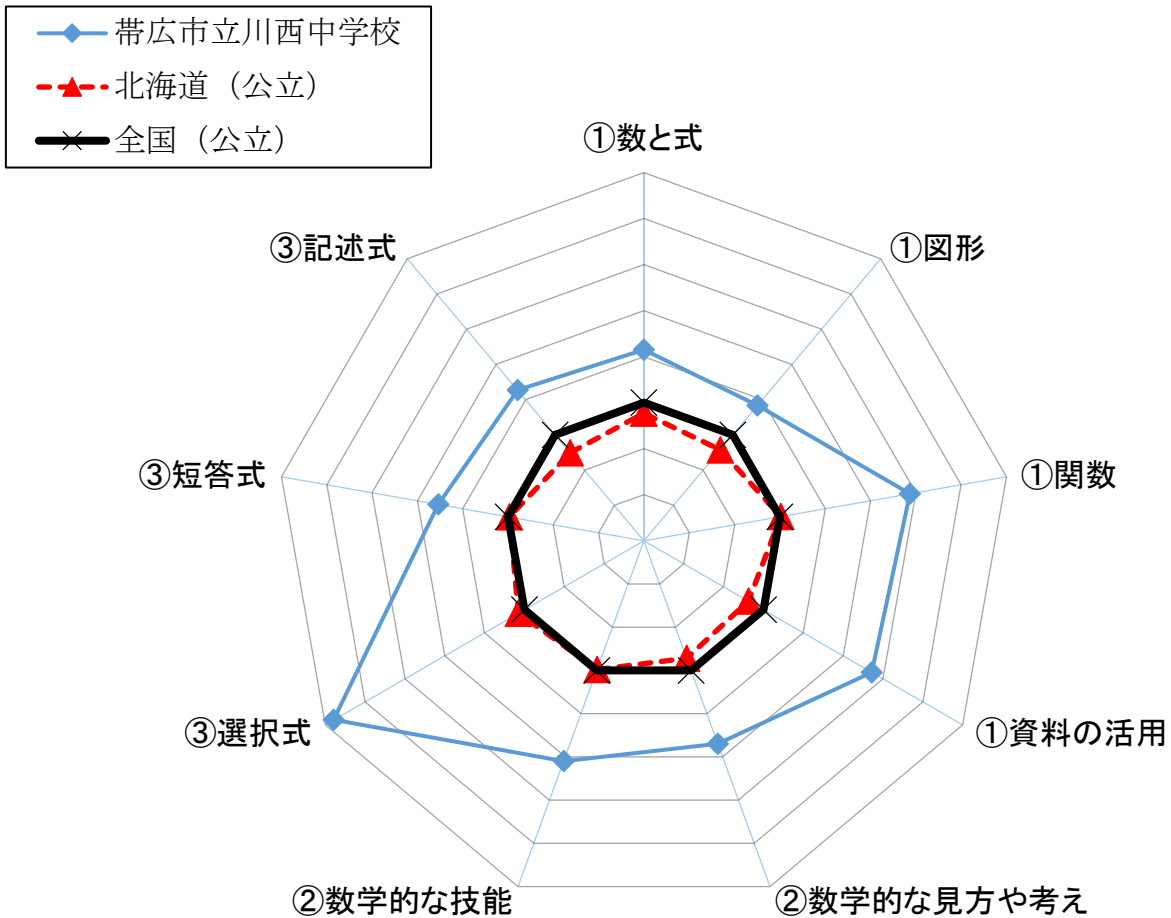
・数学 B

○与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、
処理する問題は高い正答率がある。考えることが
1つの問題については、正答率が高い。

▲文章が長くなり、解答過程が2つ、3つと増える
問題では、課題がある。

▲どの領域においても、自分の考えを論理的に説明
することに課題がある。

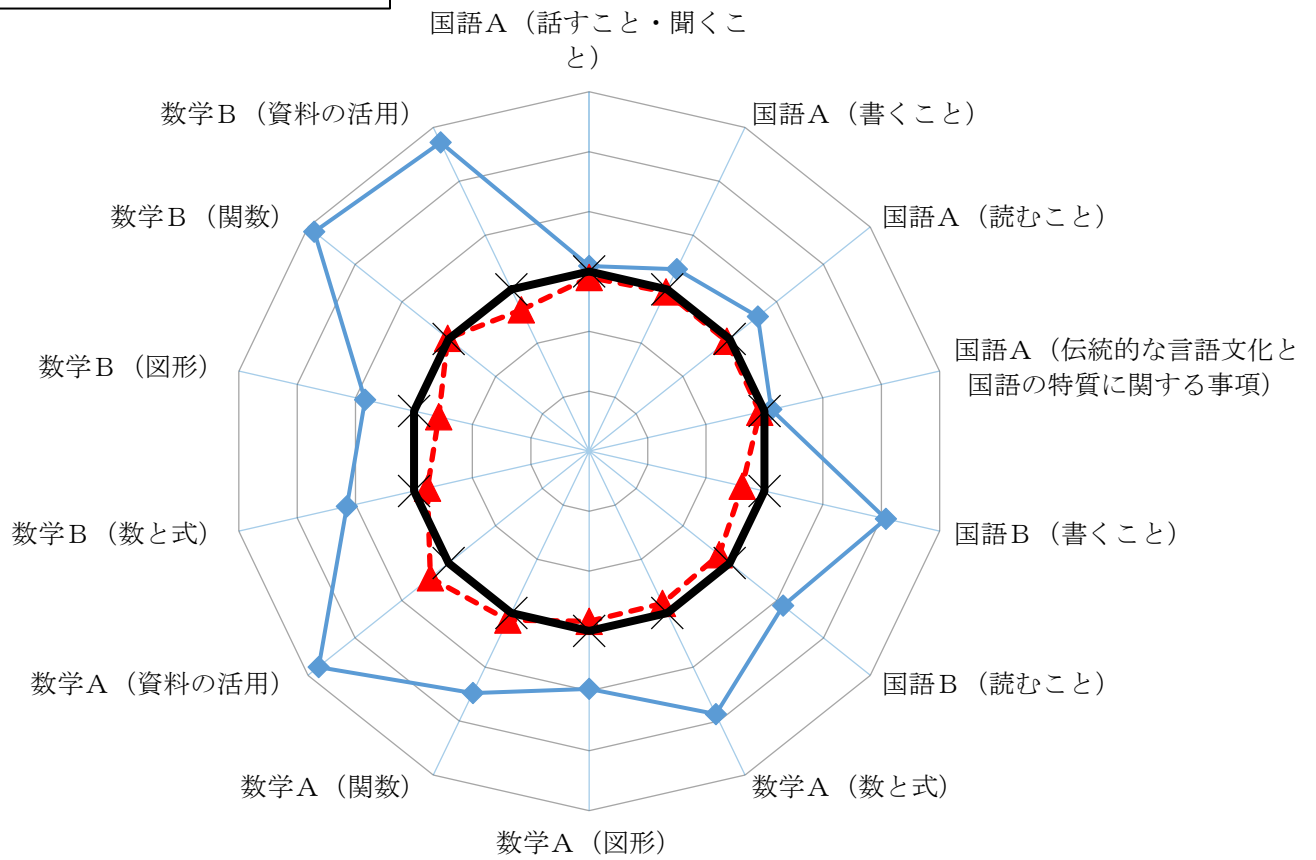
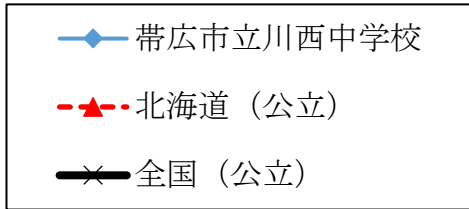
▲関数では、何が x 軸で何が y 軸を表しているのか
理解しない生徒が多い。



◇ 改善の方策

- ・小テストを毎時間行い、数学的な基礎力・基本となる計算力の向上を図る。(数学的な技能の定着)
- ・「小テスト」や「はがき新聞」を活用した学び直し学習の充実を図る。(数学的な知識の定着)
- ・文章題では、答えの導き方を隣同士で説明しあう場面を増やす。(数学的な思考力の定着)(言語活動の充実)
- ・小グループの学び合いの場面を増やし、課題解決学習を実践する。(言語活動の充実)

③ 教科全体



生徒質問紙より

【分析結果と課題】

- 食事を食べ、起床時間は同じ時間に起き（共に 100%）、規則正しい生活をしている生徒が多数いる。
- 最後までやり遂げた達成感（100%）や自己肯定感が高い(72%)生徒が多い。
- SNSの使用時間は1時間以内（94%）でゲームなどの時間は1時間以内（50%）の生徒が多い。
- 学校以外で平日は1時間以上（94%）、休日などは2時間以上学習している（78%）と学習習慣はある。
- 家で学校の宿題をしている（95%）と与えられた課題を何とかしようとする生徒が多い。
- 国語の勉強は好き（33%）、よく分かる(78%)と答え、どちらかと言えば好き、どちらかと言えば分かるを入れると前者は72%、後者は100%となる。
- 数学の勉強は好き（50%）、よく分かる（67%）と答え、どちらかと言えば好き、どちらかと言えば分かるを入れると前者は(89%)、後者は(94%)となる。
- 授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていた（100%）であった。
- いじめはどんな理由があってもいけない（94%）、人の役に立つ人間になりたい(100%)と答えた生徒の割合は高くなっている。
- 家の人と学校での出来事を話している（83%）、家の手伝いをしている（89%）で、家庭での役割や会話などもしている。
- 学校の規則を守っている（100%）であった。
- ▲友達の前で自分の考えや意見を発表することは苦手（45%）である。
- ▲昼休みや放課後、学校が休みの時に、本を読んだり借りたりするために、学校図書館や地域の図書館に行く割合は、年に数回またはほとんど行かない生徒は（78%）となる。
- ▲学校の授業の予習をしている（50%）であった。
- ▲400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい（56%）と多かった。

◇ 改善の方策

- ・学校における家庭学習の指導や宿題の出し方を再考し、改善する。また、復習だけでなく、自主的な学習意欲の向上に努められるよう、授業改善を行う。（学級担任と教科担任との連携）
- ・朝読書の時間だけでなく、本に親しむことがとても大切である。今年度より、川西中エリアファミリーで、読書の時間を設けた。啓発活動をし、家族みんなで取組み、本に親しめるよう、努める。
（学校と家庭との連携）
- ・学習状況・生活状況アンケートにより、メディアやSNSの利用状況などの決まり事を設け、更によりよい生活習慣や学習習慣を見直す。（学校と家庭との連携）
- ・授業参観や公開研究会などにより、地域の関係機関と意見交流をし、生徒の実態把握を深め、「確かな学力」の向上に努める。（学校と地域との連携）
- ・自分で考えたことをみんなの前で発表するだけでなく、考えたことをわかりやすくまとめるなど、要約する力、また、書く力を国語科だけでなく、すべての教科で連携して行う。（教科どうしの連携）